

## おかやま創生総合戦略推進有識者会議における主な意見

### 【全般】

- ・ K P I と事業がリンクするよう、しっかりと考える必要がある。
- ・ K P I の実績が判明していないものがある。毎年、実績が出る K P I を取り入れるべき。
- ・ 力を入れるべきタイムリーな施策を県と市町村が連携し、打ち出す必要がある。
- ・ 事業の詳しいプロセスがわかると、民間が県との連携や関わり合いについて検討が可能となる。
- ・ 公共調達において、女性活躍・子育て支援・若者雇用に加点評価する、インセンティブを与える取組をしてはどうか。
- ・ 民間の立場で自治体の施策に提言しながら、実行の部分で支援したい。
- ・ 「子どもを育てやすい岡山」「移住して住みやすい岡山」など、わかりやすい、インパクトのあるキャッチフレーズをつくり、それに繋がる施策をしてはどうか。

### 【対策1 若い世代の希望をかなえる少子化対策の推進（自然減対策）】

- ・ 若い世代は、結婚、子育てに対してマイナスイメージがある。それを払拭する肯定的なイメージを発信する必要がある。
- ・ 子どもを大切にできる県であってほしい。子育ては楽しいという肯定的な、暖かさを施策の中に感じられるといい。
- ・ 地域の子育て支援を充実することで、自分で子育てしたい人が、子育てできる地域になって欲しい。

### 【対策2 人を呼び込む魅力ある郷土岡山づくりの推進（社会減対策）】

- ・ 企業、特に中小企業の人材確保は深刻な問題となっている。人材確保の支援に力を入れる必要がある。
- ・ 若い世代の移住には、安心できる子育て・教育環境が重要だ。
- ・ 若者が県外に転出する理由と県の産業施策にミスマッチがあるのではないかと。
- ・ 他県では、地元就職に関する奨学金優遇制度を設けているが、岡山県はない。踏み込んだ施策をする必要がある。